

3月27日 名古屋港管理組合議会3月定例会 山口清明議員

## 金城ふ頭～ガーデンふ頭～中川運河 水上交通の整備など親しまれる港づくりを

名古屋港管理組合議会の3月定例会で、山口清明議員が一般質問を行いました。

### 金城ふ頭の交流と物流機能の両立

金城ふ頭に大型テーマパークのレゴランド及び大型商業施設メーカーズピアがオープンし、名古屋市の予測では年間来場者数150～200万人とされます。名古屋港管理組合は、この機会をとらえてこの地域の回遊性を高めて金城ふ頭のにぎわいを、中川運河の水上交通の整備やガーデンふ頭の再開発とあわせて、港全体のにぎわいにつなげたい、と考えています。

### 急増する自動車交通の排気ガス監視を

金城ふ頭では水深12mの耐震強化岸壁を整備、16haを埋め立てて自動車保管場所を45ha確保し、年間57万台の完成自動車を取り扱う事業に着手しています。山口委員は、商業開発やクルーズ船などの交流拠点と物流拠点の機能両立について質問し



「一昨年の調査で平日1日17000台

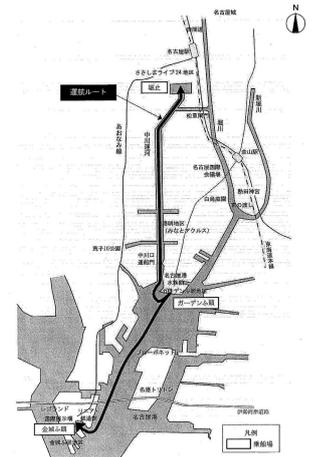
の通過車両がありレゴ開業や工事車両でさらに増加する。排気ガスの大気汚染の監視を」と求めました。

### レゴランドのガーデンふ頭への影響は

山口議員は、「金城ふ頭へのテーマパークやアミューズメント施設のオープンでガーデンふ頭のシートレインランドなどへの影響や、レゴランド水族館の2018年開業による名古屋港水族館への影響」について質問。当局は「競合することはあるが更なる魅力向上で金城ふ頭からの来訪者を呼び込みたい」と答えました。

### 中川運河の水上交通や中川閘門等の活用を

金城ふ頭とガーデンふ頭の移動手段にシャトルバスや水上バスも検討されていますが、料金や時間等に課題があります。山口議員は「金城ふ頭の開発をガーデンふ頭の賑わいにつなげる手立てを。中川運河の水上交通に中川閘門を加えた観光スポットの開発を」と求めました。



## なぜ名古屋港と四日市港を一体運営する新会社をつくるの？

### 運営の一体化は2017年9月11日が期限

伊勢湾で一つの港湾運営会社の指定に向けた新会社の設立について山口議員が全議会に続き追及しました。

名古屋港と四日市の各運営会社に加えて新たな港湾運営会社を今年9月11日までに設立する理由などについてただしました。当局は「9月11日で現在の特例港湾運営会社は制度のメリットを失うため、無利子貸し付け等の機能を分割・移動して新しい運営会社で活用をする。従前の会社も制度メリットはなくなるが、施設の管理を行うために存続する」と答えました。

先行して設立された京浜港と阪神港の港湾運営会社と伊勢湾の新会社との違いなどを示し、「新会社での民間及び国からの出資はどうか」とただしました。当局は「国の出資はない。民間の出資を受入れ、

組合は新会社の筆頭株主になる。国の国際コンテナ戦略港湾の政策や港湾法における名古屋港の位置づけは変わらない」と答えました。

### 課題の解決のないまま強行するな

山口議員は、「新会社の運営に複数の自治体が連携を図る仕組みがない」と指摘し、「出資比率で物事が決まるため、新会社を民主的にコントロールしていくことが大きな課題になる。

新会社設立が最良の道ではない」と批判しました。

港湾運営会社の内容

	構成	資本金／出資割合
京浜港	横浜港・川崎港	5.1億円／国50%・横浜45%・川崎4.5%・民間0.5%
阪神港	大阪港・神戸港	7.3億円／国34.2%・大阪30.8%・神戸30.8%・民間4.1%
伊勢湾	名古屋港・四日市港	3000万円／名港管理組合65%・四日市港管理組合35%